

ザスパだより

病院など4施設 16選手が訪問

J2ザスパクサツ群馬の選手16人が9日、前橋と高崎両市内の病院など4施設を分かれて訪問し、入院患者や施設利用者らとボールを通じて交

流した。

前橋市の県済生会前橋病院には小林竜樹、吉浜遼平、富居大樹、鈴木雄太が訪問。同病院の老人保健施設でリフティングを披露した後、27人の通所者と2組に分かれて隣の人にボールを手渡すゲームを楽しんだ。

4選手が握手して回る



老人保健施設の利用者と握手するザスパの4選手

と涙を流す人も。同市の市村三郎さん(85)は「初めて選手を間近で見えて緊張した。ザスパには連勝街道を突き進んでほしい」と期待していた。同病院の保育施設では3歳以下の子どもと触れ合った。小林は「いろいろな方に応援されていると実感した。期待に結果で応えたい」とリーグ終盤戦の躍進を誓った。訪問は2005年から毎年実施している。10日には高崎市榛名地域活動支援センターを訪れる。

上毛新聞社
2015/9/10掲載